

【 広報文 】

< 豊園神社・池庄町自治会共同発信 >

令和7年9月30日(火)

豊園神社 (厄除八幡宮)

東近江市池庄町自治会

しんしょう

しんしょうろう しんしょうや

つりかねどう

神鐘を奉じた新鐘楼「神鐘舎」(通称:釣鐘堂)の建立(新築)に伴う

竣工式の挙行について

※

～『神鐘の 鐘の音響け 厄除けの里』～

やくじん

とよくにじんじゃ(やくよけはちまんぐう)

「厄神さん」の愛称で親しまれている東近江市池庄町の豊園神社(厄除八幡宮)では、本年度、神鐘舎(釣鐘堂)の鐘楼を再建しており、この度、工事の完了に伴い、下記のとおり竣工式を開催します。

一般的には、「釣鐘」と言えばお寺を想像しますが、当神社では、かつて「神道と仏教」が混在した時代の名残で、歴史的な遺産とされるところの「神仏習合」の証でもある全国的に珍しい『神鐘』を保有しています。そして、この鐘楼(釣鐘堂)は、当神社のシンボルとして、長年、地域住民や参拝者らに親しまれています。

しかし、江戸時代の中期に建設され、約 300 年の時を経た鐘楼は、老朽化が激しい状況でした。このため、建築学・文化財等の専門家のアドバイスを受け、また、地元での検討を重ねるなかで、「鐘楼再建」を決定し、約 1 年の工期をかけて工事を進めました。今回、地元の悲願である「新鐘楼」の完成を機に、お知らせします。

記

1 竣工式の日時等

- 日時 令和7年 10 月 13 日(月:祝日・スポーツの日) 午前 10 時～
 - 場所 東近江市池庄町 1518 番地「豊園神社」南側・「楠御神木」北側
- ※ (池庄町公民館「自治会館」北側の釣鐘堂)

2 式典の内容

- 祝詞奏上(のりとそうじょう)、玉串奉奠(たまぐしほうてん)等【高島宮司斎行】
- 神鐘の三度撞き→ ① 万災厄除祈願 ② 安全安心祈願 ③ 世界平和祈願

3 新鐘楼の概要

- 切妻造り、檜4本柱、三州瓦葺き屋根、破風、鐘楼床面積[3.65m×3.35m]
- 上段の四方(東西南北方向)に鳩「雄雌の向かい鳩」を彫刻し、新鐘楼を飾る
＜八幡宮神社の象徴たる「鳩」と世界の平和・安寧を願う「鳩」をデザイン化＞
- スロープ階段・手摺りの設置、現氏子中全員の芳名刻印プレートを貼付
- 建設工事施工業者 東近江市鋳物師町 811-3 (株) 藤吉工務店

別紙(参考)

【 豊岡神社に関する補足説明資料（令和7年を基準に考察） 】

豊岡神社は、「厄除八幡宮」と呼ばれるように、「厄除けの神様」として広く知られていますが、歴史的には、大神様の御神徳と氏子中の敬神の熱意で幾多の困難を克服し、『復興・復活』を成し遂げた神社であります。

1 神鐘及び鐘楼の歴史と概要

- ① 江戸時代正徳 5 年(西暦 1715 年)、先代神鐘を鑄造、旧鐘楼を建立造営
- ② 戦時下の昭和 16 年(西暦 1941 年)に、政府の「金属類回収令」によって、当地から先代『旧神鐘』を国へ供出し、その後、戦争の資材として熔解・消滅
- ③ 戦後の混乱期の昭和 22 年(西暦 1947 年)に、氏子の総意によって当市長町の金寿堂「黄地佐平」氏の手により、『現神鐘』を新たに再鑄造して、旧鐘楼に奉じる → 【復興・復活】※(現神鐘は今年で 78 年目)
- ④ 現神鐘は、重量 280 貫(1,050 kg)、「天下泰平」「五穀豊穡」「厄除八幡宮」との銘が刻印されているもので、鐘型自体が大きく、比類なき立派な銅製
- ⑤ 全国で神社名が刻印され、管理・保管されている神鐘数は、約 100 基余り神鐘の稀少価値は極めて高い

2 豊岡神社の歴史略歴と現状

- ① 当神社は、14世紀半ばの延元期(西暦 1336 年～1340 年)に創祀鎮座
- ② 当神社は、宇佐神宮「宇佐八幡宮」(大分県)の分社
- ③ 北海道の「栗山神社」が、当社の御分霊(分末社)
- ④ 戦国時代元亀2年(西暦 1571 年)、「織田信長」の近江国への侵略・侵攻により「比叡山焼討ち」「百済寺焼討ち」と同時期に、当神社が兵火にかかり、社殿、宝物、記録等の全てを焼失して、灰埃に帰す
- ⑤ 江戸時代寛政元年(西暦 1789 年)、社殿を再建（現神社の本社殿）
→ 【復興・復活】※(再建後今年で 236 年目)
- ⑥ 神社の「本社殿」と「石塔」が、東近江市指定文化財に登録
- ⑦ 神社の御祭神(御三神)は、
 - 菅田別尊(ほんだわけのみこと) → 「応仁天皇(おうじんてんのう)」
 - 息長足姫尊(おきながたらしひめのみこと) → 「神功皇后(じんぐうこうごう)」
 - 竹内宿禰大臣(たけのうちのすくねのおおみ) → 「天皇の臣下・官僚」
- ⑧ 毎年 1 月 18 日から 20 日までの 3 日間に斎行する「厄除例大祭」では、県内外から多数の参詣・参拝者らが来訪、厄除祈禱や御神符、お守り等撤饌品の授与を求める敬神者の老若男女で賑わう(3 日間で約 2 万人の人出)
- ⑨ 当神社宮司は高島善次郎、当番氏子総代は中島正博(090-8656-8389)